

2007 年 7 月 27 日 (金)

名古屋大学病院 8F 東病棟会議室

1. 症例検討： 今回の例会では、検討症例はなかった。
2. 名古屋 BMT グループとしての、移植症例データの扱いについて
 - (1) 河野先生より、これまでのデータ収集の経緯と現状の報告があった。約 2,200 例の移植症例が集積されていることが報告されたが、データには一部欠損がある。マンパワー的にも、これまでの方法では集積不可能であり、C-SHOT など管理する必要性があることが示された。
 - (2) 次いで熱田先生から、ワーキンググループ(WG)-D での検討の経緯が紹介された。2004 年 1 月より WG-D で NBMTG グループの移植データ集積をどうするかを検討が開始されたが、同年 2 月に造血細胞移植学会で移植データ登録一元化プロジェクトが始まったため、名古屋グループでの検討は休止していた。造血細胞移植学会の登録一元化が動き出したので、NBMTG でのデータ収集をどうするか決める時期に来ていることが報告された。
 - (3) 現在の造血細胞移植学会移植登録一元管理プログラム(TRUMP)では、施設別にプログラムをカスタマイズすることが可能である。NBMTG としては、構成施設が共通のプログラムを使用することで同じデータを集積することができる。WG-D では、NBMTG としての追加収集データは、project oriented であるべきことが提言されている。その候補として、熱田先生から慢性 GVHD について、稲本先生から TMA(TAM)について、データ収集項目の候補が示された。参加者から色々な意見が出されたが、しばらく続ける registry として集めるべき項目と、project として集めるべき項目に分別して最終案をまとめることになった。

3. 臨床試験の現状

C-SHOT でデータ管理をしている 0301~0601 の 8 つの study について、現状と進捗状況が報告された。進行中の study に関しては、症例登録のお願いがなされた。また、HP で紹介している愛知県がんセンターのマイナー組織適合抗原ペプチドを用いた免疫療法の study に関して、赤塚先生より現状と変更予定の紹介がなされ、あわせて症例紹介の希望があった。

4. 新規 study の提案

NBMTG の新規 study として、臍帯血ミニ移植の紹介が成松先生よりあった。当初予定した Flu+Mel の前処置では期待した成果が挙がらない可能性が pilot study より示唆されたことが紹介され、現時点でのプロトコル立案は難しいことが示された。前処置に関して、

今回 Flu + ivBU という提案がなされ、これに対していくつかの意見が出された。方向性に関しては、引き続き議論がなされることになった。NBMTG として独自の study の可能性が低ければ、日本として結果を出すべく、全国 study に乗ることも選択肢として示された。

5. その他

Hot な議論が続いたが、午後 9 時 30 分に散会となった。会後の議論の中で、NBMTG の蓄積したリソースを集積して共有すべきことが課題として挙げられた。まずは、業績集をまとめるべきであると結論された。

次回例会： 2007 年 9 月 28 日（金）

名古屋大学医学部医系研究棟 B1F 会議室